

発行日 2025年11月 <https://www.kurume-it.ac.jp/in/>

大変暑かった夏もようやく過ぎ、大学受験のシーズンとなってきました。皆さんが思い描く「未来の自分」になるために、何を学ぶべきかを考え、選択していただきたいと思います。情報ネットワーク工学科では、IT・ICTをベースに、CGや回路・組込み、ネットワーク、AI、ウェルビーイングなどの専門知識を選択して学べる環境があります。皆さんの選択枝のひとつになれば幸いです。

学科長 江藤 信一

## ビジュアルコンテンツコースの紹介

今、画面の中で私たちを魅了するCG、ゲーム、映像、Webサイト——それを創り出す技術を学ぶコースです。「こんな表現がしたい」「こんな世界をつくりたい」と思ったら、ぜひビジュアルコンテンツコースへ！CGやゲーム、Webの制作技術だけでなく、他コースのAIやネットワーク技術も学べるので進路の幅も広がります。

こんな人におすすめ

- CG・ゲーム・映像・Webデザインなど、“見せる・魅せる”技術を本格的に学びたい高校生
- 自分のアイデアを形にする表現力、クリエイティブな発想力を伸ばしたいと考えている人
- 技術 × デザイン・コンテンツ制作という、幅広い視点をもって将来の職業を選びたい人

将来のキャリアは？

- デジタルコンテンツクリエイター（ゲーム、映像、Web）
- Webデザイナー／UI／UXデザイナー
- 技術＋表現を活かしたIT系クリエイティブ職
- 「技術もわかる」クリエイターとして、将来的には企画・制作ディレクションも可能

## 学生活動:データサイエンス部

データサイエンス(DS)部では、AIやデータサイエンスに関する知識やスキルを修得するために定期的に勉強会を開催しています。近年、AIやデータサイエンスは急速に需要が増えており、そういったスキルを持った人が重宝されています。そこで、DS部ではスキルの修得を目標として活動しています。

また、修得したスキルを用いてコンペへの参加やAI関連の資格の取得を行っています。昨年度からは、久留米工業大学の学生向けのコンペを開催するようになりました。今年度は、文章から著者を推定するAIを作成するという内容を行っています。難易度は高いですが、みんな一生懸命やっています。部員数は現在22名で、うち7名が女子部員となっており、女子学生も入りやすい活動になっています。



# 資格取得：G検定・E資格

---

最近注目されているAI(ディープラーニング)に関する資格に、一般財団法人ディープラーニング協会主催の「G検定」「E資格」があります。「G検定」はAIをビジネスなどで活用するジェネラリスト向けの資格であり、本学のAI教育を受けた学生が毎年合格しています。エンジニア向けの「E資格」は、より難易度が高い資格ですが、情報ネットワーク工学科や大学院電子情報システム工学専攻の学生の合格実績があります。

高度なAIスキルを身につけた学生は、卒業研究で企業と連携したAI応用研究に取り組んだり、全学的なAI科目のTA(ティーチングアシスタント)をしたりして、活躍の場を広げています。

## 学生インタビュー： 就職編

---

情報ネットワーク工学科4年生 岡 美琴  
出身高校 祐誠高等学校

私は金融・産業系のシステム開発会社に3年生の後期で内定を頂きました。就職活動では、自分に合う企業を見つける上で自己分析と企業研究がとても大切なため、時間をかけて行うべきだと思います。

面接でAIとの向き合い方や今後の展望を問われた際には、本学で受けたAI教育、中でも選抜クラスで地元企業と連携して開発や発表を行った経験から、自分の考えをしっかりと伝えることが出来ました。また学生生活(Picture)で「実際に何かを作った経験」があったことで人事の方に強い関心を持って頂き、開発中のメンバとのコミュニケーション面などを大きくアピールできました。

## 学生インタビュー： 進学編

---

情報ネットワーク工学科4年生 辻 陽仁  
出身高校 祐誠高等学校

大学で地域企業の課題を解決するシステム開発に取り組んだことで、将来はシステムエンジニアとして働きたいと思いました。しかし、就職活動を通して社会でシステムエンジニアとして活動するには、まだまだ自身の能力が足りないと感じました。そこで、大学院でさらに深い知識を学んだり実践経験を積むことで、自身の能力を高めていきたいと思い、大学院進学をしようと考えました。また、特別奨学生制度やTA制度を利用できることで、経済的負担を軽減しながら学業に専念できると感じたことも進学の後押しになりました。農業分野では人手不足が問題になっており、自動収穫ロボットが求められています。大学院ではそのロボットに搭載する唐辛子認識モデルの開発をし、自動化を目指します。